

豊玉姫神社の歴史

豊玉姫神社の起源についての詳細な記録はありませんが、元々は塩田川のほとりにあった神社で、戦国時代の内乱や社会の混乱の中で焼失したといえます。

江戸時代、現在の佐賀県は鍋島家の支配下にあり、嬉野は蓮池藩の管轄下にありました。初代蓮池藩主・鍋島直澄（1616～1669）は、鍋島家の家紋の使用を認め、神社の威信を大きく向上させました。直澄は、現在も嬉野にご利益をもたらしたとして崇敬されています。

1882年（明治15年）に現在の場所に移転しましたが、入口から三ツ鳥居など江戸時代に建てられた建造物の一部がそのまま残っています。現在では、美しい神「豊玉姫」の伝説にちなんで、健康と美肌を祈願するために参拝客が訪れています。豊玉姫の使者は肌がつるつるしていることで知られるナマズで、「ナマズ様」の愛称で親しまれているナマズ神も祀られています。